

心豊かな暮らし

縁

en

<http://www.yabashi.co.jp/house/>

2010 Vol.13 winter



3 ■ 特集

平屋を楽しむ ふたりの時間

岐阜県大垣市 T様邸

7 ■ 「矢橋の家」

「和」モデルハウスグランドオープン

矢橋グループの街づくり

GREEN COURT 荒尾Ⅲ うるおひの丘 うるおひの丘感謝祭

11 ■ 矢橋工房—漆と付き合う

矢橋工房感謝展

13 ■ 矢橋グループ事業部紹介—三星磁業株式会社 グリーンコート事業部 余呉農場

余呉工場から余呉農場へ

■ 連載

中山道赤坂つれづれの記 文／故清水 春二 皇女和宮の下向余話（二）





■特集
平屋を楽しむ
ふたりの時間

岐阜県大垣市 T様邸



営業担当
木材事業本部 住宅部
早崎 信治

T様の住まいづくりに、土地探しの段階から関わらせて頂き、有難うございました。
小柳先生にご監修頂き、ご夫妻の思いが
込められた住まいが完成しました。
これからも、末永いお付き合い宜しくお願い致します。



光と緑に満ちた 癒しの居住空間

——こたわり

リビングの解放的な明るさは、吹抜け天井や、中庭から注がれる光からつくられるもの。自然の光が心地よく、昼間はほとんど電気をつけずに過ごされるそうです。太陽光発電で地球にも人にもやさしい。緑の担当は、奥様。どの部屋からも緑が見えるようになっています。お庭には、自然の形の様々な樹木が植えられています。「緑はいいね。癒されます。自然のままの姿がいい。お庭にハーブを植えたくて、ラベンダーやバジル、窓を開けて、香りを感じながら過ごすのが楽しみです。」と、奥様が楽しそうにおっしゃいました。

——ちょうど良い距離

それぞれ自由に使える空間も、時間も、とても大切なもの。音楽や油絵など、多くの趣味をお持ちになるご主人と、緑や大を愛する奥様。ふたり仲良く暮らしつつ、時にお互いの時間を尊重する「ちょうど良い距離」を大切にされていました。

来客が多いというT様。住む人が癒されるだけでなく、お客様を快適に招きたいという思いが、心地よく伝わりました。
二〇一〇年一月には、弊社の分譲地「うるおひの丘」に、「モデルハウス」和「平屋建て」がオープン致します。平屋の良さをより多くの方に体感して頂ければ幸いです。

平屋という選択、 ちょうどいい距離で。

住宅街に、桜並木と調和した森の中のような住宅。T様のお住まいです。

——きっかけ

以前お住まいだった家は、人の通りが多く、毎日カーテンを閉め切り、洗濯物も外には干せなかったそうです。
「ちよつと疲れてしまったかな。開放的な家に憧れていました。」と、奥様。
「子どもの手も離れて、2階は必要なくなりました。これからの生活を考えて、平屋に住みたかった」とご主人。

——住みこち

「必要な部屋だけで、無駄な動きをしなくていいので快適です。バリアフリーで段差が無く、車椅子でも生活できるようになっています。部屋が繋がって風がよく通りますし、ぐるりと回れて、掃除がとても楽ですよ。」と、平屋ならではの良さにとっても満足されていました。

「ふたりで相談し、気に入るものが見つかるまで、とにかく足を運んだ」という家具も、美しくコーディネートされています。
「住居令」小柳茂先生意匠監修のもと、監督や棟梁、いいスタッフに恵まれて、理想通りの家ができました、と喜ばれるおふたりの様子に、我々も嬉しくなりました。

GREEN COURT
荒尾Ⅲ
うるおひの丘



大くすのき

おかげさまで、昨年春に分譲開始しました「うるおひの丘」には沢山のお家が建ち、素敵な街並みが出来てきました。
そこでこの度、皆様への日頃の感謝を込めて「感謝祭」を開催する運びとなりました。当日は新モデルハウス「和」(平屋建て)の内覧会や「矢橋工房商品」(漆器等)の即売会など皆様にお楽しみいただける企画をご用意しております。年の瀬の慌ただしい時期ではございますが、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

うるおひの丘感謝祭

2009年12月

19

Sat

20

Sun

10:00-17:00

NAGOMI MODEL HOUSE

Ver. 平屋建て

2010年1月

モデルハウスグランドオープン

(うるおひの丘感謝祭にて、12月19日20日事前内覧会開催)

子供たちも
巣立ったことだし
そろそろ
ふたりの
住処でも
考えて
みようか…



新たなライフステージで…

「矢橋の家の理念」

人が住むべき緑豊かな心休まる良い環境に、
天然素材を活かした日本の伝統を受け継ぐ家に住もう。
日本の原風景を取り戻し、日本人が育つ住環境をつくりたい。



健康に暮らすために
インフルエンザにお気をつけ下さい。

Column
コラム

新型インフルエンザの状況

2009年春に感染のはじまった新型インフルエンザは、夏以降も感染が続いており、小、中、高校での学級閉鎖などが相次いでいます。季節性インフルエンザと共に感染の予防が重要です。

● インフルエンザの予防のために



- ① 外出後の手洗い・うがいを励行しましょう。
- ② 流行期間中はできるだけ人混みを避けましょう。
- ③ 十分な栄養と休養をとり、体力を落とさないようにしましょう。

● 守っていますか？

Check! 咳エチケット



- ☐ 咳、くしゃみの際はティッシュなどで口と鼻を被い、他の人から顔をそむける。
- ☐ 使ったティッシュはすぐにゴミ箱に捨てる。
- ☐ 咳をしている場合は、必ずマスクを着用する。



うるおひの丘 第三期街並



矢橋オリジナル無垢フローリング



矢橋オリジナル無垢ドア



透灯(とうとう) 矢橋工房



image

安全 安心 本物 快適 趣味

YABASHI FORESTRY
YABASHINOIE

第三期好評分譲中 Natural Life

緑の中で自然に暮らす

実のなる木

街の随所に実のなる木や、四季の移ろいを感じられる木や花を植えています。木の実を摘んでそのまま食べたり、ジャムやお菓子づくりを楽しんでみてはいかがでしょうか？



家庭菜園

手をかけて育てた野菜は本当においしい。自分で作るから安心です。子どもが小さい時は砂場とで、大きくなったら一緒に野菜づくりを。ハーブやお花を植えてのしむこともできます。



「コムファ光」対応

ひかり電話にも対応しているコムファ光を標準装備。ひかり同士の会話なら無料なので、住民同士の連絡や回覧などは将来的にはひかり電話でできるよう考えています。

「オール電化」対応

火を使わない「オール電化」、火事やヤケドの心配が少なからず安心です。





自分でできる住まいのお手入れ

ふだんのちょっとしたお手入れが大切です。

- 年末大掃除
 - 働く女性にインタビュー
 - Q どのくらい時間をかけますか？
 - A 集中して一日でスッキリと。
 - ・ じっくりと三日間かけて隅々まで...
 - Q 大変な作業は何ですか？
 - A ざっととした台所の油汚れ
 - ・ 重く、体力を使う拭き
 - Q 楽しい作業は何ですか？
 - A 棚の整理整頓
 - ・ 油汚れがどんどんキレイになる瞬間
- 年末は重曹でナチュラルクリーニング

重曹は天然物質で、私たちの体内にも存在する天然ミネラルの一種です。酸性である汗や手あか、皮脂汚れ、油汚れなどを中和して落とす作用があり、住まいのクリーニングに幅広く使えます。

重曹 シンク磨きなどに。細かい粒子が研磨剤となります。

重曹ペースト ▶ 重曹2:水1の割合でペースト状に鍋のこびり付き、レンジなど、台所全体に使えます。

重曹スプレー ▶ 重曹大さじ4杯:ぬるま湯1ℓよく溶かしてスプレー容器に。台所だけでなく、お風呂やトイレにも使え、こびりついた汚れをはがしてくれるマルチなお掃除スプレーです。

簡単！アロマ消臭剤

重曹...適量(200gくらい)
アロマオイル...20〜30滴

 - ① 容器の中で重曹とアロマオイルをブレンドし、よく混ぜ合わせます。
 - ② 臭いが気になる場所に置いてください。

効果は一ヶ月程度持続します。おすすめ精油はペパーミント、ユーカリ、オレンジ、レモンなど。一ヶ月経った消臭剤は台所シンクやお風呂掃除のクレンザーとして、無駄なく使えます。

※ご注意 アルミ製・銅製、漆塗りの食器や調理器具等、金銀、銀器、土器等の食器等には使用しないでください。置やフローリングなど天然素材のものは変色したり、表面が傷つく場合もあります。



LIFE INFORMATION

【交通機関】

- 向馬温泉駅 荒尾駅...約500m
- 近鉄バス 御音神社前停...約200m
- 教育施設
- 西部中学校...約1600m
- 手賀生幼稚園・小学校...約400m
- かつみ保育園...約800m
- 【金融機関】
- 大垣共立銀行 荒尾出張所...約300m
- 大垣信用金庫 荒尾支店...約200m
- 十六銀行 赤坂支店...約1800m

【公共機関】

- 大垣荒尾郵便局...約300m
- 【ショッピング】
- ミニタヤ荒尾店...約400m
- 中和堂ノースウエスト店...約500m
- パロー赤坂店...約1400m
- ココストア...約400m
- 【医療機関】
- 北條クリニック...約400m
- 金森病院...約1000m
- 大垣セントラルクリニック...約600m




【地図】 荒尾市街地図。うるおひの丘の位置が示されています。

【カーナビ】 カナパナビで検索の方は「岐阜県大垣市荒尾町1705-4」と入力下さい。(標記已機設の東)

※現地周辺までのご案内になります。機種によって表示されない場合がございます。

GREEN COURT 荒尾III うるおひの丘

自然の恵みを 自然の恵みを 自然の恵みを 自然の恵みを

この辺りは 宇留生(うるう) 地区

何で この名前になったの？

散歩道、道草、なごの巨樹。公園ふしぎな石、かくれんぼ。ほのの野草、おはちさんのおすわり。夏の暑さ、冬の風見上げた空の美しさも星のきらめき。ぜんぶぜんぶ毎日のたかもの。ゆたかりと、ゆたかに流るる時間を、楽しむ暮らしが、ここに「うるおひの丘」で始まります。



モニュメント
「この地に生まれの地に還る」

個性的な形のモニュメントのある「ふるさと公園」。この街には子どもたちの好奇心を刺激するような仕掛けが随所に施されています。



大垣市の木「クスノキ」は、葉の緑が鮮く輝く音が響く騒音を消し、静かな環境をつくるといわれています。

「うるおひの丘感謝祭」会場



2025年11月現在

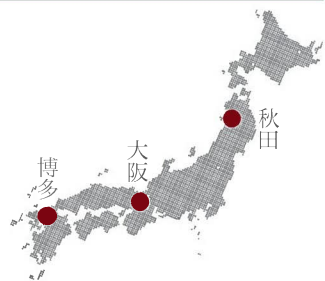
第一期分譲 第二期分譲 第三期分譲 戸建分譲



第二期分譲



お雑煮お国自慢



昆布
かつおだし
角餅
椎茸
なると
ねぎ
正月菜



昆布だし
丸餅
白味噌
里芋
大根



アゴだし
小丸餅
鶏肉
ぶり
椎茸
勝男菜
人参
里芋
大根
かまぼこ
昆布
するめ



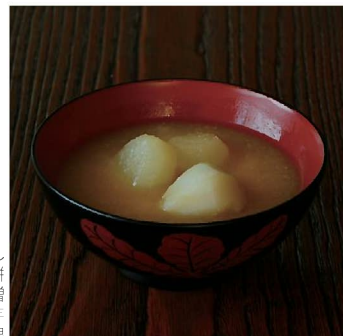
弊社社員のお様方、ご協力ありがとうございました。

お雑煮は、一年の無事を祈り、お正月に食べる伝統的な日本料理です。お雑煮をいただくお椀には、とっておきの漆器をお使いください。あらたまった雰囲気、テーブルをコーディネート。伝統的な日本の美を楽しみながら、お正月をお祝いしてみたいいかがでしょうか。



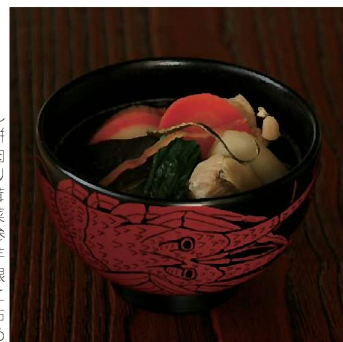
秋田

昆布とかつおでだしを取り、角餅、椎茸、なると、ねぎ、正月菜、醤油、みりん、砂糖、塩で味付け。少し甘めのすまし仕立て。消化を助けるなますと一緒に。



大阪

昆布だしと白味噌。丸いお餅と、大根、里芋で。とろりと甘いごろごろ雑煮。角が立たず、円満に過ごせるように、具は丸く切りましょう。



博多

日の出に見立てた人参、魚卵の椎茸、鶴の里芋、出世魚のぶり、勝男菜。山海の幸をふんだんに盛った、縁起の良い豪華版。

レシピのお問い合わせはこちら ▶▶ setuda@mail.yabashi.co.jp



漆器でもてなす
日本のお正月



矢橋工房感謝展

使っていただくための在庫販売

■ 矢橋工房 銀座店

2009年12月 3日(木)
-12月14日(月)
10:00 - 18:00 会期中無休

■ うるおひの丘 モデルハウス「和」

2009年12月19日(土)
12月20日(日)
10:00 - 17:00
うるおひの丘感謝祭同時開催

漆

矢橋工房

岐阜県不破郡垂井町表佐 410-1 TEL 0584-22-3684 FAX 0584-22-3687 E-mail keiko@mail.yabashi.co.jp
銀座店: 東京都中央区銀座4-3-2清水ビル2F TEL/FAX 03-3561-8972

■ 矢橋工房 漆と付き合う 矢橋工房感謝展

漆

矢橋工房

<http://www.yabashi.co.jp/craft/>

余呉工場から余呉農場へ



YABASHI FORESTRY

AGROFORESTRY (アグロフォレストリー)とは...

日本の森は昔もずっと多様だったのです。現在では植林木と言えは杉、檜の単一樹種が植林されて育てられている林が主流です。自然な森の姿とは広葉樹、針葉樹ともにその土地にあった樹種が混在している林です。本来の森の中には美しい花々や、栗、胡桃、胡桃などの木の果、舞茸、なめたけ、しめじ等のスーパーに売っているきのこではない自然に育ったきのこ、老木である大木には中心部が朽果ててそこには日本の和蜂が広葉樹の多様な花々の蜜を集め本当の日本の蜂蜜を蓄えています。自然の森の環境の中で、森の中に本来あった食物を栽培したいと考えています。生産性ではない本当の自然の農法はないものか挑戦したいと思っています。

YABASHI FORESTRY (ヤバシ・フォレストリー)とは...

矢橋林業は木を使って仕事をして参りました。木を植え、木を切りお庭に植えて頂く広葉樹を薪炭住宅の部材を作り、木造住宅の構材を加工し、木の家を建て、木の恵みを得てそれを加工し皆様にお届けしてまいりました。矢橋の林(仕事)には、いろんな木(事業)が育つてまいりました。我々の原点である森の恵をもっと近いところで、また、皆様にもっと木を森の環境を身近に感じて頂ける物をお届けする事が出来ないのかと考えています。今、いくつかの事業に取り組んでいます。その取り組みを「YABASHI FORESTRY」と呼ぶ事にしました。



余呉の田んぼ

三星砒業(株)グリーンコート事業部は、農業に過した余呉の自然環境を生かした作物をつくりながら、町おこしと町の振興へ協力できる一端に貢献し、安心・安全な有機野菜・近江米・茶花などを皆様にお届けしたいという一心から始めました。余呉工場の敷地に自社の愛行山より表土を運搬し耕作地をつくり、試験的ではありますが茶花を数種類とサツマイモ・サトイモ・落花生・赤かぶら・山かぶらなどを育成し、栽培にも挑戦しております。また、近隣の田んぼでは米づくりの勉強を兼ねて水稲栽培を始め、この秋に収穫を行いました。量は少なめでしたが、おいしい米が採れました。今後、余呉農場でつくる喜びを感じながら、皆様に自信の持てる作物をお届け出来るよう事業部一丸となって努力して参ります。



YABASHI FORESTRY WOOD WORK

無垢の温もりを感じてください

インターネットで販売開始
<http://www.rakuten.co.jp/yabashi/>

携帯電話からも
ご購入頂けます
▶▶▶



余呉農場

FOOD

「地域の特産品とは地域の人の心とつながり、そして自然の恵みから生まれるものです。余呉農場は、地域の気候風土に合った、本来の旬の農産物が最も自然で豊潤なおいしさがあると思います。矢橋が関係する地域、地元である岐阜県八幡市赤坂町、滋賀県伊豆郡余呉町には昔からある名産品があります。矢橋の関連する地域の復活と再発見に取り組みたいと思っています。本場の味、真の豊かさとは、一年に一度旬の季節を待つその土地の気候風土と自然農法で育てた名物を味わう事だと思っています。」



茶花の栽培



赤坂のいちじく



近江余呉米

「時の流れ」

気楽な独身時代から結婚して所帯を持つと二人の生活が始まります。そして子供ができて、家族が増え賑やかで忙しい慌ただしい時間が過ぎていきます。ふと気づくといつの間にか子供は巣立ち、最初の二人の生活に戻るのです。今まで小さくて狭かった家の空間は、広く感じられ寂しくも感じてしまう。それは第二の新婚生活が始まると言えるのではないかと考えております。新婚の頃より夫婦は二人とも自分の世界を持てるようになり自分の時間を大事にできる余裕が出てくるのです。自分の子供が巣立ち、そして家庭を持ち、孫が子供の家から巣立つまで日本人の人生は長くなりました。社会が変化し、高齢化社会に移行して子供や孫と共に暮らすには時間があります。美、食、自然と人生を本当に楽しめる時間が持てるようになった我々は親としての責任から解放され、自分の人生を楽しむ為に投資をしても良いのではないかと思います。西洋の人々は子供が巣立れば夫婦だけの世界を取り戻し、夫婦の中でも一人の世界を取り戻し、個人の人生を楽しむのです。我々日本人にもそんな豊かな暮らしを手に入れる事が出来るようになりました。住むだけでなく、楽しむ為の小さな平屋には庭があり、自分の為の部屋がある。そして夫婦二人の為に静かに落ち着いた空間がある。人生の苦楽を共にしてきた二人の第二の新しい結婚生活の為に矢橋の平屋「和」を造りました。

矢橋林業株式会社
代表取締役社長 矢橋龍宜

うみゆり連載集

中山道赤坂つれづれの記

皇女和宮の下向余話(二)

故清水 春一

江戸時代から明治、大正へとくつがれてきた近江八幡、日野、五個荘など近江商人の活躍は遅しく有名ですが、中でも美濃に最も近く、また関係深いのは、五個荘町でした。

赤坂町との因縁話は別に譲り、ここでは近江商人の小杉元蔵という人物が、各地に商売で出掛けた折々に見聞した事柄を記録した日記様式の「見聞日録」をもとにして、三省堂が出版した佐藤誠朗著『近江商人 幕末・維新見聞録』から、文久元年(一八六二)の二月以降、同年秋の皇女和宮さま、ご下向の後ころのゆかりある部分を拾い読みして、ご紹介します。

当時の時代背景など、また一般的な民衆の生活の片鱗を偲んでもらえたら幸いです。

『近江商人 幕末・維新見聞録』

二月十三日、二十五歳の元蔵は、商売で尾州名古屋に行く途中、美濃墨俣辺りで雷雨に行く手を阻まれ、笠松では深夜の地震で町中大騒ぎと

なった。十四日は吹きつける小砂に難儀して名古屋へ入った。

二月二十日、京の宿に届いた江戸からの急飛脚便で、正月下旬から水戸浪人と名乗る者たちが白昼押しかけ、異人征伐の軍用金と称して大店から五百両、千両の大金を脅し取った云々。浪人の二団が大勢のため公儀でも召捕りかねており、諸所に番所を立てて通行人は厳しく取調べられたので旅人は迷惑し、米も百文に三合余りの高値である。

十月十三日、和宮が二十日ごろ京を出発されるということで、中山道の宿駅は普請でこつた返していた。十九日から往来は通行止めとなった。

隣村の市田村、三俣村には宮川藩(西近江)堀田豊前守家老が表固めに出張り、位田村(五個荘町龍田)の馬場道にも、お固め衆が昼夜詰めた。

街道筋は勿論、村内の道筋にも竹矢来を構え、駅(宿場町)の入口、出口には大門を立て、外番所、内番所など厳重に固めた。

二十二日、勅使広橋殿以下が愛知

川宿に泊り、三日間の野止めが触れ出された。

二十三日、和宮様が泊り、二十四日も下り衆が泊り通行した。

この大通行のために、十二月十日京よりの帰りに京、大津間三里(約十二キロ)の逢坂峠越えは日本中に並びの悪い悪路となつたので、横木から小関を越えて舟で矢橋に渡り草津に出た。

十二月十四日、四度目の尾州起村へ下つた。風や雪は二日中止まず、醒ヶ井の西から柏原の東にかけて雪が深かった。関ヶ原で泊る。

十七日は起村(尾西市)の米蔵宅に世話になる。そして竹ヶ鼻(羽島市)へ商いに出向いた。

二十二日朝、起村をあとに位田村の店に向かう。



『近江商人 幕末・維新見聞録』

起村辺りは、既に繊維に関する商品が盛んな土地であつたことが窺え、また対岸(木曾川)の竹ヶ鼻が蚊帳の生産地であつたこともうなずける、なお、文久二年二月下旬、長崎でハシカが流行し出して、中山道通行の長州侯はじめ、彦根藩などの大名行列がハシカに取りつかれ困り果てた、とあり、將軍家茂も和宮もハシカに取りつかれた、と記されています。



中山道 赤坂宿街並



矢橋林業株式会社

